



## もどこの花

佐々木淑子

ぽかぽか春がやつてきた  
かわいいももがふくらんで  
にこにこえがおでいいました  
もう春ですよ、春ですよ

と、こどもたちのうたう声が、きこえてくる  
ようになると、幼稚園の中は、春がきたよろ  
こびと共に、年長組の卒業と、そしてまた、  
年少組のもうすぐ大きい組になるよろこびで  
みなぎっています。

そういう頃、幼稚園のお庭の片すみに、早くも、「おおいぬふぐり」の小さなあかい花  
が咲きました。いちはやく見つけ、私にし  
らせにきたことにも、「春のお花よ」と、そ  
っとしらせたら、「これ、春のお花よ! これ  
春のお花!」と、おともだんちみんなに云つて  
歩いていました。私は、このことどもたちを見  
ながら、心の中で申しました。「冬の間、大  
好きな花つみも出来なかつたけれど、もう、  
春ですよ。もうじき、みんなは、大きい組に  
なるし、また幼稚園のお庭で、お花つみして  
遊びましようね。」と。そうして、又、「こう思  
いました。ことどもたちの中から疑問はおきな  
かつたけれど、『春の花たちは、冬の間、どう

していたのでしょうか』といふことを、はじめ  
て春の花をみつけたこの時、ことどもたちに  
考えさせたい」と。考えさせると云つて  
も、むずかしいことではなく、冬の間も春の  
花は生きていたのだということを、そして、  
雨や日光などのおかげで花を咲かせたのだと  
いうことを、感じるとくらいですが。

そこで、ずっと前に、何かの本で読んだよ  
うな気がする可愛いお話を思いながら、こど  
もに親しみを感じさせるように、花のことども、  
花のことども、お日様のことどもを登場させて、  
花の成長と雨と日光との交渉をお話にして、  
ことどもたちに聞かせました。その話は、劇あ  
そび集にのせた、「花のことども」と大体同じ  
ようなものでした。

その話を、私が一度した後で、もう一度、  
ことどもたちに、今の話を思い出させながら、  
くり返してみました。そうして、その時、お  
話の中で、花のことどもや雨のことども、お日様  
のことどもが言うところは、ことどもたちに言わ  
せてみました。次には、花のことども、雨のこと  
ども、お日様のことどもの三つのグループに分  
けて、私が話の筋を進めながら、それそれの  
グループのことどもが、自分たちの言うべきこ

とぼを、一しょに云うようにしてみました。雨のことなども、お日様のことのせりふは同じですし、くり返しの形になつてゐるので、子どもたちもすぐ覚えましたし、自分たちが、お話の中の登場人物になれることを、よろこんでいたようでした。

私としては、この話から劇あそびへ発展させるつもりではなかつたのでしたが、この話をしたあと、自由遊びの時に、お花ごっこと称して、おへやのすみに花の家をつくり、そこへ雨のこどもがやつて来たり、お日様のこどもがやつて来たりして、遊んでいるグループがあらわれました。この遊びの様子を見て、すでに劇あそびにはなつてゐるけれどもこれをもう少し指導し、組のこどもが皆一しょに遊べるような劇にしたいと思い、こどもたちと一しょに考えながら、「花のこと」という劇あそびをつくり上げたわけです。実際にやりながら、いろいろ工夫いたしましたが、

○この劇は、人に見せるための劇としてやつたのではないので、どこから見ても同じ体形にしてやりました。  
○花のこどもの家は、椅子をまるく並べました。

た。そして、椅子に頭をもたせて、花のこともがねています。この時、椅子と椅子の間は、こどもが一人、樂に通れる位の間隔をあけておかないと、あとで雨のこどもやお日様のこどもが入つて来る時に困りました。そして、出来るだけ大きい円にします。

○せりふは、その役のこどもが、皆一しょに

言うことにしました。みんな一しょですと、声は出しやすいのですが、出だしがなかなか揃いません。それで、トン、トン、トン、といふときに、ピアノでかるく和音を叩き、それに合わせて言い出すことにしました。

○雨のこどもやお日様のこどもが、花のこともをおこしに来る時は、一度目は静かに歩き、二度目はスキップ、三度目は二人一しょに（雨とお日様と一しょに）スキップ、といふように、だんだんに強く表現するように、変化させてみました。

○二場では、雨のこどもとお日様のこどもも登場して、拍手して、よろこびを表しました。

なお、私は、花のこどもは、たねと考えていましたが、お話では、「外は寒い冬でした。いましたが、お話では、「外は寒い冬でした。」

というだけで、はつきり、たねと言いませんでしたところ、この話をしたあとで、「花のこどもって、何でしょう？」とたずねますと、とつさに出了返答は、「つぼみ」でした。こどもには、たねよりもつぼみの方が、花のことをしては、直接的で、適當であるかと思ひました。

（お茶の水大附属幼稚園）

刊

新

日本女子大学教授 愛育研究所食養部長

医学博士 武藤 静子 著

## 栄養学の基礎から給食まで

A5判・208頁  
定価 250円+24

株式会社 フレーベル館